

令和 6 年度使用

小学校用教科用図書研究資料

道 徳

教科用図書南那珂採択地区協議会

Ⅰ 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点Ⅰ〕 学習指導要領に示された道徳科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 道徳科の目標を達成するために、例えば、高学年では「よりよい学校生活、集団生活の充実」、「国際理解、国際親善」等に関する教材を複数配置するなど、発達の段階に応じて指導できるような構成・配列の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 道徳科の目標を達成するために、全学年で人物や地域に焦点を当てた「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」等に関する補充教材を設けることで、児童の実態を考慮した指導につながるような構成・配列の工夫が見られる。
38 光 村	(1) 道徳科の目標を達成するために、全学年で「生命の尊さ」に関する教材を三つずつ配置し、継続して自らを大切にすることを考えられるようにするなど、児童の発達の段階に応じて指導できるような構成・配列の工夫が見られる。
116 日 文	(1) 道徳科の目標を達成するために、例えば、高学年で「友情、信頼」「国際理解、国際親善」等の補助教材（ふろく）を設けるなど、児童の実態を考慮した指導の充実につながるような構成・配列の工夫が見られる。
208 光 文	(1) 道徳科の目標を達成するために、例えば、高学年では「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」等に関する教材を複数配置するなど、児童の発達の段階に応じて指導できるような構成・配列の工夫が見られる。
224 学 研	(1) 道徳科の目標を達成するために、例えば、5 学年では、年度の前半に「自分自身に関すること」、後半に「集団や社会に関すること」の教材を多く配置するなど、児童の発達の段階に応じて指導できるような構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的に自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるような学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 各学年の巻末の「考えるためのツール」には、自分の考えを可視化し、話し合う活動を促すツールを例示し、付録で「心情円」などを掲載することで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 「問題を見つけて考えよう」や「演じて考えよう」など、道徳的行為に関する体験的な学習を設定し、積極的な議論を促したり、児童の多様な考えを引き出したりすることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 動作化や役割演技、「やってみよう」などの体験的な学びを設定するなど、自分なりの問いをもたせたり、実際の行動と結び付けながら価値を学ばせたりすることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 教材末の「考えよう」「深めよう」「つなげよう」では、様々な問いが設けられており、児童の考えを深めさせたり、多様な考えを引き出すきっかけにさせたりすることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) キャラクターによる問いや役割演技、3 学年以上にいては、思考ツールを活用し、意欲的に学習に取り組んだり、自分の考えを広げたり整理したりすることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 全学年の教材末にある学習の手引きでは、段階的に考えを深めていく発問や考えたことを問い直す発問を提示するなどして、児童に多様な価値観で話し合いをさせることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 巻頭に「道徳の学び方」を設け、学び方の基本を理解させたり、教材全体への見通しをもたせ、問題意識を高めさせたりすることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 別冊「道徳ノート」や教材に関連した内容を取り上げた「心のベンチ」を設定するなど、自分の考えを広げさせたり、多様な価値観に触れさせたりすることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。

208 光 文	(1) 冒頭の問いの設定や教材末に児童の思考に寄り添う問いを提示するなど、自分のこととして考えさせたり、「どうして」「なぜ」と問い続けさせたりすることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 教材と関連した内容を取り上げた「ひろげよう」を設定し、自分の考えを視覚化したり、学習した内容をまとめたりできる発達の段階に応じた思考ツールを掲載することで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。
224 学 研	(1) よりよく生きるための「心の四つのとびら」の紹介とともに、「自分が～」「あなたは～」と児童の思考に寄り添う発問を提示し、自分のこととして考えさせることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 学んだことをもとに思考を広げる「深めよう」や学習したことを基に、自分につなげて考えたり話題を広げたりする「心のパスポート」を設定することで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に、1年間で学ぶことや学習の進め方・話合いのイメージをつかませるページを設けることで、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。また、巻末に「学習の記録」を設けることで、児童が自らの成長を実感することができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、教材の見出しに四つの視点を表すイメージのマークを示すことで、学習する内容をとらえやすくし、教材の冒頭は主題と教材名だけを示し、先入観なく教材を読むことができるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳ではこんな学び方をするよ」を設けることで、見通しをもって学習に取り組むことができるような工夫がなされている。また、教材ごとに学習を振り返る欄や巻末に「学習をふり返ろう」のページを設け、1年間の心の成長を実感したり、これからの生活に生かしていきたいことを考えたりすることができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、教材の題材の下にキャラクターによる吹き出しの言葉で、ねらいとする道徳的価値や教材内容への導入を図り、児童の興味・関心や問題意識を高めることができるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳が始まるよ」を設けることで、道徳の学びや1年間の学びの全体像を見通したり、話合いの仕方を学んだりすることができるような工夫がなされている。また、巻末に1時間ごとの振り返りを記録する折込「学びの記録」を設けることで、発達の段階に合わせた振り返りができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、「考えよう・話し合おう」において、学習のテーマや問いを示したり、「つなげよう」で考えたことを問い直させたりすることで、児童が考えたことを日常生活で生かすことができるような工夫が見られる。

116 日 文	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道德のとびら」や「道德の学び方」を設けることで、1年間の学習の全体像、系統性が一目で分かり、学びに見通しをもつことができる工夫がなされている。また、別冊「道德ノート」の書く活動を通して、思考を深めたり、自分の学びを見つめ直し成長を感じられたりするような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、教材の文頭に主な登場人物の紹介や内容に沿ったリード文を設けることで、児童の教材内容についての理解を助け、内容をイメージしながら考えたり話し合ったりすることができるような工夫が見られる。
208 光 文	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「ゆたかな心」「道德の時間は、こんな時間です」を設けることで、道德の学習と日常生活とのつながりを考えながら、見通しをもって主体的に学習に取り組むための工夫がなされている。また、巻末に「学びの足あと」を設けることで、自らの成長を実感し、新たな課題や目標を見付けて学習に取り組むことができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、成長する鳥のアイコンで導入・展開・発展の発問を提示し、児童が自問自答しながら主体的に深く考えたり、考えを広げたりしながら、多様な見方・考え方ができるような工夫が見られる。
224 学 研	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に、道德学習の進め方や1年間の学びの全体像、自分を見つめるページを設けることで、見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。また、巻末に1年間の学びや自らの成長を振り返るページを設けることで、1年間の自分の心の成長を感じ、これからの生き方につなげることができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、教材の題名の上に四つの視点をマークと色で示したり、題名の下に教材文を読みたくなるようなフレーズを掲載したりし、児童が主体的に学習することができるような工夫が見られる。

4 地域の願いや思い及び児童の実態等への配慮

〔観点4〕 地域の願いや思いを基盤とした学習を推進するとともに、児童の道徳性を養うという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 家庭や地域との連携については、単元末に自分の家族について考えさせたり、自分の地域の伝統行事について考えさせたりする場を設定することで、家族や地域の願いや思いを基盤とした学習ができるように工夫されている。 (2) 挨拶や接し方等の他者と関わる経験が不足しているという実態から、「人とのかかわり」等のような道徳的価値を高める単元設定をさらに「相手の立場に立って」や「多くの支えで成り立つ生活に」などのように細分化することで、経験を補う工夫がされている。
17 教 出	(1) 家庭や地域との連携については、単元末の「深めよう」や「つなげよう」において家族と自分との関わり方を考えたり、自分の地域の伝統行事について考えさせたりする場を設定することで、家族や地域の願いや思いを基盤とした学習ができるように工夫されている。 (2) 挨拶や接し方等の他者と関わる経験が不足しているという実態から、「周りの人のこと」や「みんなや社会のこと」の中で複数単元において体験しながら考える教材が盛り込まれることで、経験を補う工夫がされている。
38 光 村	(1) 家庭や地域の連携については、単元末に家族のためにどんなことができるかを考えさせたり、住んでいる地域のよさや魅力等を考えさせたりする場を設定することで、家族や地域の対する愛情を育むことができるような工夫が見られる。 (2) 挨拶や接し方等の他者と関わる経験が不足しているという実態から、人との関わりの道徳的価値を高める単元設定を、相手との関わり、社会との関わり、命、自然との関わりとさらに細分化することで、経験を補う工夫がされている。

116 日 文	(1) 家庭や地域との連携については、単元末の「見つめよう・生かそう」において、自分の家族に対する考えや、自分の地域に対する考えを引き出す場を設定することで、家族や地域の願いや思いを基盤とした学習ができるように工夫されている。 (2) 挨拶や接し方等の他者と関わる経験が不足しているという実態から、一連の単元の中に教材を設けるだけでなく、付録としても一単元「国や郷土を愛する態度」を見つめ直すことのできる単元を追加するなど、学校の特色に応じて経験を補う工夫がされている。
208 光 文	(1) 家庭や地域との連携については、「家族 知ってるつもりビンゴゲーム」や地域の思いやりをつなぐコラムを設定することで、家庭及び集団や社会との関わりについて考えることができるように工夫されている。 (2) 挨拶や接し方等の他者と関わる経験が不足しているという実態から、「集団や社会とのこと」の道徳的価値を高める単元を複数設定し、単元末の「広げよう」によって日常の実践への意欲を高めることで、経験を補う工夫がされている。
224 学 研	(1) 家庭や地域との連携については、単元末に自分の家族や郷土について振り返る場を設定することや家庭での出来事、地域のために活動している人々を描いた教材を通すことで、児童が主体的に関わり方を考えることができるように工夫されている。 (2) 挨拶や接し方等の他者と関わる経験が不足しているという実態から、「社会とわたし」の道徳的価値を高める単元の中に、具体的な写真資料や「心のパスポート」等を活用することで、経験を補う工夫がされている。